

お元気ですか

何科へ？

由岐病院内科 本田 壮一

【著者略歴】

本田 壮一（ほんだ そういち）
 由岐病院院長・阿部診療所所長（兼任）
 昭和33年7月、美波町田井の生まれ。富岡西高、
 徳島大学医学部卒業。徳島大学病院内科、関連病院
 勤務後、平成17年4月より、現職。

かつては、一人の医師が全ての範囲の病気を診察し、治療していました。近年、医学の進歩は著しく、膨大な医学知識が必要で、一人の医師が全ての病気を深く診るのは難しくなり、専門の科が次々と独立し、専門知識で患者さんの治療をするようになりました。このため、難しい病気も治療できるようになりました。下表に、県内最大の徳島大学病院の診療科を示します。患者さんより「細分化した科目がわかりにくい」と、聞きます。そこで今回は、専門科の内容について解説します。

まず、大きく分けると、薬や注射で治療する内科と、手術が必要な病気をあつかう外科とに分かれます。

内科の中で患者さんが多いのは、胃・腸や、肝臓・胆のうなどの病気を診る「消化器科」、心臓病や、高血圧などの「循環器科」、肺炎・肺がん・気管支喘息・肺気腫など肺の病気を診る「呼吸器科」です。また、腎炎・腎不全は「腎臓内科」、糖尿病・甲状腺などの病気は「代謝科」や「内分泌科」、貧血・白血病などは「血液内科」が担当です。さらに、神経や筋肉の病気は、「神経内科」が担当します。ただし、症状からすぐに専門科がわからない場合があり、まず相談できる「総合診療科」を設けている病院もあります。

外科には、内科のそれぞれの分野に対応する外科（「消化器・心臓血管・呼吸器外科」）があり、場合によっては、内科医・外科医と一緒に活動している病院もあります。「整形外科」は、骨・関節・脊髄を中心に、外傷をあつかいます。機能回復を行う「リハビリテーション科」があります。脳血管障害・脳腫瘍・頭部外傷は、「脳外科」が診ます。

さらに、女性の病気、妊娠・出産を扱う、「婦人科・産科」、赤ちゃんから15歳までのこどもを診る「小児科」があり、「眼科」「耳鼻科」「皮膚科」は、それぞれ、目・顔から首まで・皮膚の診療をしています。「泌尿器科」は、皮膚科から分かれた科ですが、前立腺の病気や、尿路のがんを治療します。

「精神科」は、統合失調症・認知症・ストレスによるうつなどを、「麻酔科」は、手術の麻酔や、痛みの治療をしています。「放射線科」は、放射線などを使って、診断・治療を行います。

何科にかかるか迷うことが多いと思います。また、総合病院へは、かかりつけ医の紹介状が必要です。遠慮なく、かかりつけ医にご相談ください。

ご意見・ご感想を歓迎します。

由岐病院 FAX：0884(78)0533

表：徳島大学病院の診療科（歯科を除く）

内科	消化器内科	循環器内科	呼吸器・膠原病内科
	内分泌・代謝内科	腎臓内科	神経内科
	血液内科		
外科	消化器・移植外科	食道・乳腺甲状腺外科	心臓血管外科
	呼吸器外科	泌尿器科	小児外科・小児内視鏡外科
感覚・皮膚・運動機能科	眼科	皮膚科	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
	形成外科・美容外科	整形外科	
脳・神経・精神科	脳神経外科	心身症科	精神科神経科
	麻酔科		
小児・周産・女性科	小児科	産科婦人科	
放射線科	放射線科		